

少子高齢化などの社会環境の変化に伴い、地域のニーズや課題も複雑で多岐にわたり、行政だけで解決することが難しくなっています。さらに、自治会などの地域団体も、高齢化によって活動を担う人が減少したり、会員の減少から資金が少なくなったりと、十分に活動を行えなくなっています。こうした地域の課題を解決するためには、地域と行政の連携や、地域主体の取り組みを行政が支えることが必要です。

昨年、つくばみらい市は「地域づくり活動モデル地区支援補助金」を創設しました。これは、市民と行政の協働により、地域の課題解決や、地域の特性を活かした魅力的なまちづくりを応援するためのもので、東地区をモデル地区に指定しています。



今月号の特集では、補助金を活用してさまざまな活動に取り組んでいる「東地区まちづくりの会」の取り組みを紹介します！

図 伊奈庁舎地域推進課（内線 1301）



「東地区まちづくりの会」の皆さんにインタビュー！

地域のつながりが薄くなっている



「東地区まちづくりの会」は、昨年6月に設立した地域のコミュニティ組織です。「地域づくり活動モデル地区支援補助金」の創設に伴い、東地区をモデル地区に指定していただいたことがきっかけで設立しました。設立時の会員数は67人でしたが、現在は74人に増えました。

東地区は、城中・東栗山・足高・東栗山住宅の4行政区で構成されています。各行政区の行政協力員や役員が中心となり、地域の課題について話し合いを重ねた結果、「高齢化やコロナ禍の影響で、地域での活動ができず、地域のつながりが薄くなっている」ことが大きな課題として挙がりました。

そんな課題を解決するため、私たちは「地域交流・生涯学習・健康福祉部会」と「環境・防災・防犯部会」の2つ

そんな課題を解決するため、私たちは「地域交流・生涯学習・健康福祉部会」と「環境・防災・防犯部会」の2つ

地域の力



鳥追い

1年の無病息災と五穀豊穡を祈る伝統行事「鳥追い」は、「城中鳥追い保存会」により保存・継承されてきました。その鳥追いを東地区まちづくりの会が協賛し、地区全体で実施することで、地域の伝統を次の世代に伝え、地域に愛着を持ってもらえるようにしました。ほかにも、地元のお米で作ったお餅と竹を用意し、参加者にその場で焼き餅を楽しんでもらいました。また、能登半島地震で被害にあわれた方に、鳥追いの実施に際して地域から集まったお金の一部を、城中鳥追い保存会が寄付しました。

